

シグマ研究委員会

昭和58年度 第8回運営委員会議事録

日 時 昭和59年2月24(金) 13:30~17:00
場 所
出席者 原田(委員長, 原研), 白方(動燃), 梶山(東北大),
中沢(東大炉), 五十嵐, 菊池, 田中, 松浦(原研)
オブザーバ: 鹿園, 内藤, 長谷川, 松本, 浅見(原研)

配布資料

1. 前回(59.1.20)議事録(案)
2. 59年度シグマ研究委員会本委員(シグマ特別専門委員)(案)
3. NEANDC第24回会合, Topical Conference プログラム
4. Santa Fe Conference への提案テーマ
5. 核融合炉・遮蔽定数WG資料
6. JENDL積分評価WG資料
7. 核種生成量評価WGの資料
8. 崩壊熱評価WG資料
9. 核構造データWG資料
10. 1983年核データ研究会の反省点メモ

議 事

1. 前回議事録確認
資料1により確認を行った。
2. 事務局報告
59年度委員会手続き: 本委員会の発令に関して, 郵便で各本委員に問合せた結果およびWGの専門委員の異動に関して各WGリーダに問合せた結果について事務局より報告があった。これらの情報をもとに作成された59年度

の本委員案（資料2）に長谷川氏（原研）を追加して運営委員会案とし、これについて承認の手続きを行うことにした。なお、炉定数専門部会長が、関（雄）氏（F B E C）から長谷川氏に交代するのに伴い、長谷川氏が関（雄）氏に代って運営委員になることになった。また、59年度の専門委員は事務局の報告通り了承された。

3. 核データ研究会の反省

中沢氏から、資料10にもとづき、昨年暮に行われた1983年核データ研究会の反省点についてのアンケート結果の紹介があった。また、資料10にある準備経過のメモは今後の開催の際に参考にすることにした。

4. NEANDC第24回会合について

五十嵐氏から会合の準備状況、外国からの委員、オブザーバ等について説明があった。

また、松本氏から資料3によりTopical Conferenceのプログラムの概要、Proceedingsの原稿の依頼等について説明があった。

5. Santa Fe Conferenceへの提案テーマ

五十嵐氏から資料4のように提案したことが報告された。

6. WG 58年度活動報告と59年度計画

（各WGとも報告の詳細は省略し、議論のあったことのみを記す。）

(1) 核融合炉施設定数WG

中沢氏から資料5により、DDXサブWGおよび遮蔽定数サブWGの活動状況、今後の作業方針について説明があった。これに対して、鉄遮蔽ベンチマーク実験解析の体系、F C AのFeデータのずれ、二次ガンマ線に関する積分実験、DDX-PLOTなどに関して質疑応答があった。

(2) JENDL積分評価WG

長谷川氏から資料6により、積分データ作業グループが行っている感度係数の作成、対話型感度解析システムの状況、共分散作業グループの状況ならびにこれらの今後の予定について説明があった。

これらに対して対話型感度解析システム、感度係数、共分散データ、JEFのベンチマーク・テストなどについて質疑応答討論が行われた。

(3) 核種生成量評価WG

内藤氏から資料7にもとづき、これまでに行ったCOMRADコードの作成、同コードによる検証計算および59年度に行う中性子反応断面積の検討、ベンチマーク計算などについて説明があった。

これに対して、プロセスは簡単なのに何故合わないのか、軽水炉以外の炉についても検討したらどうか、JENDL-2の使用予定などの質疑応答とともに、高速炉の燃焼がNEACRPの次のテーマになっていること、このWGの活動は電力会社や燃料メーカーへのよいPRになるので完了の中途でも報告書を出して欲しい等の意見があった。

(4) 崩壊熱評価WG

松本氏から資料8により、58年度の活動の概要と59年度に行う予定の崩壊熱総和計算用ライブラリーIIのための崩壊データの収集、とくに 10^3 秒付近のデータの改善、遅発中性子放射確率の評価と崩壊熱への影響の検討、長期照射における中性子捕獲反応の影響の検討等について説明があった。

これに対して中性子捕獲反応が崩壊熱に及ぼす影響および使用済み燃料槽の熱除去能力に及ぼす影響等について議論が行われた。

(5) 核構造データWG

田村氏に代って松本氏から、資料9により質量チェーン評価の現状、59年度の予定について説明があった。

これに対してENSDFを多くの人に利用してもらうようにする必要がある。端末で処理できるように利用システムを整備する必要がある等の意見が出された。

次回は4月13日（金）午後原研本部で行う予定。